

(3) 幼児教育の充実

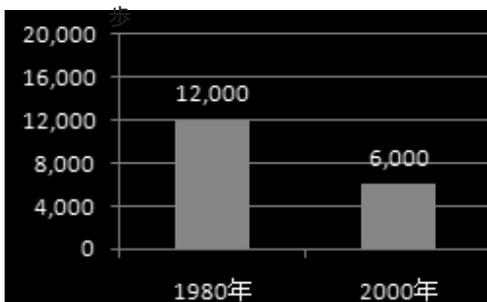
現状と課題

- 少子化、核家族化等により、子育てが孤立化し、子育てに不安を抱いている保護者が多くなってきています。
- 子どもたちの生活習慣の形成や社会性や自立心などの育ちについては、小学校就学前からの教育との関係が指摘されており、小学校以降の教育との連携・円滑な接続が求められています。
- 車社会による交通事故の危険やテレビゲームの普及などの生活環境の変化により、戸外遊びや子どもたちが集団で遊ぶ機会が減少しており、体力・運動能力の低下、コミュニケーション能力・人間関係形成力等の低下が指摘されています。
- 長野県は幼稚園の就園率が低く、多くの子どもたちが保育所での保育を受けており、保育所を含めた幼児期の教育の取組が求められています。
- 乳幼児期は子どもが生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な時期であることから、幼稚園・保育所では個々の発達過程の把握により子どもの理解度に配慮しつつ、子どもの生活や発達の連続性を踏まえた保育・教育内容の工夫により、養護と教育を一体的に行う必要があります。
- 幼稚園・保育所等の就園児の中には、特別な支援が必要な子どもが増加しており、保護者や関係者が障害に早期に気づき、適切な支援を行い、その支援を就学後に引き継ぐことが求められています。



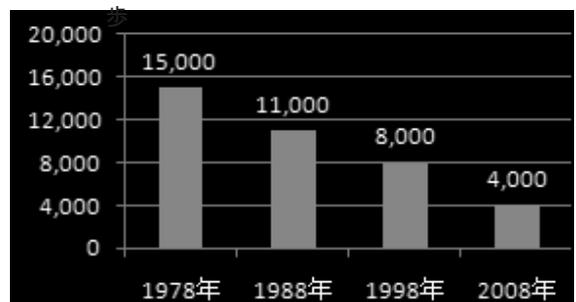
地域の伝統行事を保育に生かして
～手作り獅子舞～

図3-(3)-①
保育所の子どもたちの運動量の変化
(全国事例：歩数計による計測調査)



NHK「教育フォーカス」制作班編「これならわかる教育改革」前橋明（倉敷市立短期大学（当時）教授（現早稲田大学教授））調査

図3-(3)-②
保育所の子どもたちの運動量の変化
(県内事例：歩数計による計測調査)



柳澤秋孝（松本短期大学教授）「保育園児（松本市内5歳児）20数名における1日の平均歩数の変化」（1978年～2008年）

成果目標

- 人への信頼感、思いやりを持ち、自ら人とかかわり、集団で元気に遊ぶ子どもを育てます。
- 幼稚園・保育所と小学校の連携による、子どもたちの円滑な小学校への接続を確保します。

測定指標

測定指標項目	現状値	平成29年度の目標	備考
幼児と児童の交流会を実施する小学校の割合	93.9% (平成23年度)	100%	教学指導課「学校経営概要のまとめ—小・中学校編」
自然の中での園外保育を年間5回以上実施している幼稚園割合	公立 50.0% (平成23年度)	公立 85.0%	教学指導課調べ

主な施策の展開

幼児教育の充実のために、次のような取組を進めます。

① 幼稚園、保育所における教育（保育）の充実

- 地域の実情に応じた研修や広域的な研修、専門研修等の充実により、幼稚園教員や保育士の経験・職能に応じた専門性の向上をめざします。【情報公開・私学課、こども・家庭課、教学指導課】
- 長野県幼児教育連絡会議において、長野県幼児教育振興プログラム*の普及を推進し、子どもたちの健やかな育ちと家庭の教育力向上を図ります。【教学指導課】
- 長野県版運動プログラムの提供等による子どもたちの運動遊びの推進や地域の自然や文化を活用した体験活動の推進、異年齢児等との交流による人とかかわる体験等の充実を図ります。【教学指導課、スポーツ課】



子どもの主体性を大切にした保育環境
～どンドン広がるどんぐり迷路～

② 幼・保・小の連携強化

- 子どもたちの発達や学びの連続性を踏まえた幼稚園・保育所と小学校との連携を進め、幼・保・小間での子どもたち同士の交流や教員、保育士による相互参観、合同研修会等に取り組みます。【情報公開・私学課、こども・家庭課、教学指導課】

③ 新たな子ども・子育て支援策への取組

- 質の高い幼児教育・保育を総合的に推進する子ども・子育て関連3法に基づく新たな制度が円滑、着実に実施されるよう取り組みます。【情報公開・私学課、こども・家庭課】
- 子育てに不安を抱く保護者への支援や特別な支援が必要な幼児への支援の充実に取り組みます。【情報公開・私学課、こども・家庭課】